

SSKA 頸

損

KEISON No.95

も く じ

特集記事

2008年 全国頸髄損傷者連絡会・大阪総会 1

- ① 頸損連絡会が目指すもの 会長 三戸呂 克美
- ② 総会概要報告 ～You are not alone… 君たちがいて、僕がいる
- ③ 07年度会計報告、08年度予算
- ④ 08年度 年間活動方針
- ⑤ 大阪大会の裏方では ～大会実行委員会から～
- ⑥ 人工呼吸器使用当事者として総会に参加して
「呼吸器ユーザーの現状を社会に知ってもらうために」
- ⑦ プロジェクトX ～挑戦者たち～
「これが浪速のおもてなしや！ 大阪アピール大作戦」

連 載

- 会員さん紹介 東京頸損連絡会・山内 俊博さん 13
- 支部紹介 「静岡頸髄損傷者連絡会」 14
- お役立ち 便利なWEBサイト・図書紹介 15
- 「福島頸損友の会」発足 16
- 「財政再建の名のもとに…」大阪からの報告&新聞記事 19
- 熱中症の病型と救急処置 21
- 国際福祉機器展のお知らせ "当事者向けセミナーも開催" 23
- 「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」2008 "ロボットアームも紹介" 23
- 「バリアフリー障害当事者研修」のお知らせ "めざそう、バリアフリーを" 24

各種情報

- 障害者の権利条約が発効 25
- 訪問介護事業所が減少 25
- 小笠原バリアフリー情報 26
- ウェルキャブ地域社会活動無料サービス 26
- 全国頸髄損傷者連絡会連絡先 27
- 全国機関誌『頸損』電子版の提供について 28
- "エッセイ" "2009年全国総会・岐阜大会告知" "編集部よりのお知らせ" 29

頸損連絡会が目指すもの

～全国総会終える～

全国頸髄損傷者連絡会

会長 三戸呂克美

皆さんお変わりございませんか。去る、5月10日・11日の二日間にわたり第35回全国頸髄損傷者連絡会総会・大阪大会が開催されました。大会初日にはバンクーバー（カナダ）在住のダン・ルブランさんを招いて人工呼吸器使用者の現状を語るシンポジウムが開かれました。大会の詳細は大阪支部の報告を待つとして、今、国外に目を向けると、ミャンマーのサイクロン、中国四川省の地震と大きな災害がアジアで起きています。日本の国内で起きなければいいのに、とだれもが願っていた矢先に宮城県内陸部でまた大きな被害が出る地震が起こりました。中国の地震は阪神淡路の10倍の規模と言われていすし、宮城県の地震は阪神淡路に匹敵するぐらいと言われていす。私自身も経験した阪神淡路の震災でしたが、あのとき感じた大きさの10倍と言われても想像も出来ません。テレビで見る限り多くの建物が壊れ（中国四川省）山は形が無くなるほどの崩れよう（宮城県）。気になるのは障害を持つ人たちの生活です。中国では避難所に充てる学校が壊れているので使用できず、また壊れた中には子供達が埋まっているかもしれないといひます。ミャンマーでは救援物資も届かず避難生活が出来ないなど、色々な問題が重なり復旧も遅れているようです。我々には何が出来るだろうか。頸損連絡会としては取り組めていないが個人的には災害募金へのカンパなどがあります。

今回の震災や災害は他人事ではなく我々にも大いに関係があります。新潟県で生活をされていてご本人も2度も中越地震を経験された山内俊博さんは全国総会でその時の状況を語られました。いつ自分自身が渦中の人になるかわかりません。日頃から準備をしておくことが大事なことはわ

かりますが、何を準備すればいいのかとっさのときには動けないと思います。そんなときは仲間との連絡網が役に立つでしょう。我々が常に求めているセルフヘルプ活動は仲間を増やすだけでなく交流を通してお互いの生活を向上させることも目的の一つです。格差社会を容認する人もいますが、我々は決して容認はできません。そのために、情報の共有化は必要不可欠です。情報を共有することで格差を最小限に抑えておくことが可能です。

全国頸損連絡会では今年度最大の事業として頸損実態調査を20年ぶりに実施するために今準備を進めています。この調査目的には地域間格差や環境格差・状況を見るということも含めていす。より正確な状態を見るためには皆さんの調査へのご協力なくてはできません。

頸損連絡会が目指す「生活の向上」「生活の安定」「生活の楽しさ」を求めて平成20年度も皆さんとともに歩みたいと願っています。今年度もよろしく願いいたします。



08 全国総会「大阪大会」報告

～ You are not alone... 君たちがいて、僕がいる ～

事務局長 八幡 孝雄

さる5月10日(土)～11日(日)全国頸髄損傷者連絡会全国総会「大阪大会」を大阪国際交流センター及びホテルアウリーナ大阪に於いて開催した。大会テーマを『重度障害者の自立と支援について』として、「You are not alone... 君たちがいて、僕がいる」を合言葉に、例年にないほど大盛況の総会であった。カナダの人工呼吸器使用頸損者、新潟県中越大地震の被災頸損者の方々をゲストにお招きしたこともあり、多くの人に参加して頂いたのだと思う。以下総会の概要についてご報告する。



■シンポジウム「高位頸髄損傷による人工呼吸器使用者の可能性」について

シンポジウムは人工呼吸器ケアの先進国であるカナダBC州から招聘したダン・ルブランさんの講演の後、池田秀樹さん(兵庫)米田進一さん(兵庫)吉田憲司さん(大阪)、コーディネーターに田上彰洋さん(大阪)、全員が人工呼吸器使用者というパネルディスカッションを行った。

大阪国際交流センターの広い会場一杯に約230名が入り、パネリストの皆さんのお話を真剣に聞いていた。人工呼吸器を装着

した人も目立ち、解決の急がれる高位頸損者の問題が山積していることを、あらためて確認したシンポジウムであった。

ダン・ルブランさんは30歳、2004年に事故に遭い、24時間人工呼吸器が必要な頸損者であったが、横隔膜ペースメーカー埋め込み手術をアメリカで受けたお陰で、呼吸器依存から解放されて、ヨットを楽しむまでになっている。この手術を受けるには、電気刺激を横隔膜に伝える神経が生きているのが条件だそうだが、ダンさんは呼吸器使用者の可能性について、今生きている姿を通して私たちに伝えてくれた。

ダンさんはペースメーカー手術のメリットを、肺炎などの感染症リスクの軽減、ヘルパーを訓練することが楽になった、呼吸器関係の荷物が無くなり簡単に旅行へ行けるようになった。とにかくQOLが目覚ましく向上したと言われていた。



現在は手術の体験を伝えながら、横隔膜ペースメーカーの普及に努める一方、BC州の脊損協会でピアカウンセリングのボランティアをしているそうだ。また将来は結婚もしたいと、夢を語ってくれた。

続いて日本のパネリストたちの、日々の過ごし方を聞きながらシンポジウムは進んだ。パネリストの皆さんは旅行やカラオケに行ったり、資格試験にチャレンジしたり等、人工呼吸器を使用してはいても、チャレンジャーとして生活していた。またしっかりとした声でお話もできるし、お酒だって楽しんでいるそうである。

しかし生活を支える問題は深刻で、医療、福祉サービスの不足は、リスクとの背中合わせで、家族にも大きな負担を負わせている。自分らしく生きるためには、まだまだクリアしなければならない課題は多い。

ダンさんは「重度障害者だから何も出来ないのではない、自分が何をしたいのか、どういう風に生きたいのかという目標を持たないから、何もできないのである。前向きな意志をもって生きる事によって、道を拓く方法がおのずと見つかる」と言い切った。

■交流会

夜の交流会は、会場を宿泊先のホテルアウリーナ大阪に移して行われた。宴会場にはダンさん御一行も含めて約200名の人が入り、動きが取れないほどであった。例年のように出会いがあり、再会があり、そして余興を楽しみながら盛り上がった。余興では怪しいコスプレ姿の人たちが笑いを誘っていた。お開きになった後も、話は尽きず、ホテルの会場係に迷惑を掛けてしまったかも知れない。お酒を飲み過ぎて、介抱されているツワモノもいた。全国総会への参加を、外出、外泊訓練の良い機会として、良くも悪くも色々な体験をして頂けたら嬉しい。失敗することが無ければ、人は成長しないのではないかと体験から思うところだ。

■特別報告「地域で自立して暮らしたい ～高位頸髄損傷者の生きる道」

大会2日目は頸損者2名の特別報告で始まった。一人目はゲストの山内俊博さんに「地方で暮らす高位頸髄損傷者の自立実現に向けた活動について」話して頂いた。



山内さんは新潟県魚沼市（旧小出町）在住で、大学時代の交通事故によって首から下がほとんど動かない。2004年、2007年の中部地方を襲った大地震も体験、2007年には地元魚沼市で、NPO法人ゆめ風基金と「障がい者の復興・まちづくりシンポジウム」を共催、実行委員長も務めた。

現在は魚沼市に自立生活センターを立ち上げるための活動を、自立生活プログラムを行うなどして進めているそうだ。地方の交通事情や、雪による、活動の困難さ。地震時の避難に関わる問題等、体験に基づいたお話を頂いた。「避難所に行くより自宅にいる方がましと思った。家族と一緒に良かったが、もし単身だったらどうなっていたか・・・」というお話は身につまされる問題であると思った。誰もが不安を覚えず暮らせるように、ひとつずつ問題に向かわねばならない。

二人目は会員の相山敏子さん（福島県在住）に「住み慣れたふるさとで自立して生きる」という演題で、福祉サービスも事業所も乏しい環境の中、それでも“自分の人生を自分らしく生きたい”と奮闘されてる状況を話して頂いた。相山さんは田舎といわれている地方で自立生活を始めている。

田舎であっても情報を求めて行動することで、情報や人とのつながりが生まれ、支援してくれる人が出てくること。自分が情報の受け手から、発信者になりつつあること。そして7月には福島在住の頸損の方々と、頸損各支部有志が白河市に集まって交流する企画を練っているという事であった。



■最後に

当会はセルフヘルプを活動の大きな柱の一つとしてきた。自らの体験を伝えていく中で、人工呼吸器使用者の問題や地方で暮らす人たちの問題を明確にして、誰もが普通に生きていける社会を目指した活動を続け、活動方針を決めてきた。

総会では活動報告、会計報告、活動方針提起、役員改選をスムーズな進行によって承認して頂き、無事終えることができた。

また本年は17年ぶりに全国レベルで頸損の生活実態調査を行う。普通に生きることが出来る社会を目指して、基礎データの収集する予定である。会員の皆様のご協力をお願いしたいと思っている。

最後に大阪総会の準備に奔走して下さった全ての皆様。遠くから来て頂いたダンさん、山内さん、会員の皆様。本年度の総会が大盛況であったことに、心よりお礼申し上げます。来年は岐阜で再会しましょう。



08 全国本部役員

会 長	三戸 呂 克美（留）
副 会 長	坂上 正司（留）
副 会 長	松本 清子（新）
事務局 長	八幡 孝雄（留）
事務局 長補佐	宮野 秀樹（留）
編 集 長	菊地 敏明（留）
会 計	菊地 敏明（留）
会計監査	荻澤 孝（留）
相 談 役	三沢 了（留）
相 談 役	今西 正義（留）
相 談 役	小森 猛（留）

全国頸髄損傷者連絡会 2007年度会計報告書

(2007.4.1～2008.3.31)

単位：円

収 入	支 出
前期繰越 996,214	団体加盟費 80,959
本部会費 135,000	事務所使用料 360,000
本部運営分担金 707,500	事務諸経費 94,400
寄付金等収入 770,815	通信・発送費 62,151
受取利息 1,141	機関誌等印刷・編集費 505,573
	会議費 236,530
	旅費交通費 308,795
	次期繰越 962,262
合 計 2,610,670	合 計 2,610,670

会 計 菊地敏明

会計監査 荻澤 孝

全国頸髄損傷者連絡会 2008年度会計予算

(2008.4.1～2009.3.31)

単位：円

収 入	支 出
前期繰越 962,262	団体加盟費 85,000
本部会費 128,000	事務所使用料 360,000
本部運営分担金 710,000	事務諸経費 95,000
寄付金等収入 740,000	通信・発送費 65,000
機関誌広告収入 60,000	機関誌等印刷・編集費 525,000
	会議費 150,000
	旅費交通費 350,000
	予備費 40,000
	次期繰越 930,262
合 計 2,600,262	合 計 2,600,262

2008 年度 年間活動方針

■全体活動指針

セルフヘルプの理念の下に「ピアサポート」及び「情報収集と提供」活動を確実に行う。そのためにも全国各支部間の連携協力体制を強化する。

頸髄損傷者の抱える課題を掘り起こし、活動に反映する。

当事者不在の制度改革が無いように、各々が学び、意見発信する。

■障害者の権利保障

「障害者権利条約」の国内批准に向け、障害者の権利が確実に保証され、実効性のある国内法（障害者差別禁止法など）が整備されるよう、他団体とも協力して行動する。

■介助制度

「障害者自立支援法など」の支援サービスによって、重度障害者の自立生活が十分支えられる制度となるように、今後も各障害者団体と協力し行動する。

各地元における障害者施策に、積極的な意見発信を行っていく。

■交通・まちづくり

「障害者、高齢者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」による環境整備が、「いつでも、だれでも、どこでも」「自由に、安全に、円滑に」社会参加できるものとなるよう、全国各地での行動を継続していく。移動制約者の「移動および利用の権利」を保障するものとなるよう求める。

公共交通事業者に安全でスムーズな移動環境の整備、接遇サービスを求める。

■福祉用具（補装具・日常生活用具）

福祉用具に対するニーズを、研究者、メーカーに的確に伝え、ユーザーの視点に立った製品開発

を求める。また開発に積極的に参画し行動していく。

自立を支えるために必要な機器が、的確・迅速に入手できるように求める。必要不可欠な高機能製品が、高額な負担を強いることなく入手できるように求める。

■医療関係

医療制度改革の影響により起こっている問題を容認せず、質の高い医療、リハビリサービスが適切に受けられる制度や病院の設置を求める。

人工呼吸器使用の高位頸損者が、希望を持って闘病生活を送り、安心して地域生活に移行できる専門病院（病棟）を設けると共に、呼吸管理を指導できる専門家の養成を求める。

■住宅環境

重度身体障害者が円滑な日常生活を営める公営住宅（単身・世帯）の増設を求める。

民間住宅を借りる場合の支援サービスの充実を求める。（保証人問題、改造費用）

■所得保障・就労

障害基礎年金、諸手当によって、生活を賄える給付水準とするよう求めていく。

無年金障害者問題の根本問題解決に(積極的に)協力していく。

重度障害者の就労促進のために、教育など能力向上の方策と、就労環境の整備を求めていく。

■実態調査

頸髄損傷者の生活実態を把握し、当会の取り組むべき問題の掘り起こしを行い、課題解決を目指す。

大阪大会の裏方では ～ 大会実行委から ～

大阪顚損連絡会 鳥屋 利治

今回の大阪大会に向けて、開催の約半年前から大会実行委員会が結成されたんです。まず第1回目の実行委員会は昨年11月、大会の目的やなんで大会を行うのか、どうして実行委員会をもってやっていくことが大切なんかが赤尾実行委員長から集まられたメンバーに熱く語られ、大会までのスケジュール感とか予算規模、実行委にどんな役割があるのか認識しあったんですな。それで初回の実行委後、何はともあれまずは実行委の結成祝い、キックオフ飲み会。これがやっぱり大阪の地には必要不可欠なのであります。

大会実行委員会は月に2回のペースで行ない、日常的には専用に立ち上げたメーリングリストで会話、準備が進んでいきました。協賛集めやボランティアの呼びかけ、会場までのアクセスや会場レイアウト、それに参加申込みの集約や、大会タイムスケジュールごとのスタッフの動きの確認まで、もうやることはいっぱいあるわけです。そんなわけですからもちろん大会直前のご想像通り、てんやわんやのけんけんがくがく、実行委みんなが必死のパッチ。(語注)

(語注:「必死のパッチ」とは大阪で用いられる、人が必死になってやっている状態をさす。「パッチ」は股引のパッチで、これは一種の洒落言葉。「ひっし」と「ばっち」は関係のない言葉ですが、「ひっし」と「ばっち」のリズムが同じなので、語呂合わせで並べておかしさをかもしているものです)

それでも何とか大会までこぎ着け、無事に大会2日目も終了でき、実行委皆で終了とともに会場口ビーで円陣組んで成功の喜びと約半年の疲れを互いに分かち

合い、ほぼ全員で大阪の繁華街である難波へ出陣。やっぱりお疲れさん会と称して飲み会を開いたのです。飲み会に始まり飲み会に終わる、これがいわゆるノミニケーション、なにわの流儀ゆうもんですな。

今回の大会実行委を通じて、普段はボランティアという立場のメンバーや、これまで大阪顚損の運営に携わっていなかった顚損メンバーもこれを機会に何名かが巻き込まれていったんです。もちろん、大会当日雨の中にも関わらず駅から会場までの誘導係をしてくれた顚損当事者メンバーや、「なにわのK-1(顚損NO1)グランプリ」と名を打って、仮装というかコスチュームプレイというか何とも不思議ないでたちになっていた中にも、そのちょっと巻き込まれた人たちが居てはりました。

大会が終わってすべてが終わるとゆうのではなく、そこに残った何かがある、そこから始まる何かがある。新しく加わってくれることになったメンバーとともに今日も大阪顚損はゴロゴロと転がりながら歩みを一步一步進めていっております。



大会を終えて円陣を組んで締めをする実行委

「人口呼吸器使用当事者として総会に参加して」

～呼吸器ユーザー現状を社会に知ってもらうために～

所属・大阪頸髄損傷者連絡会
田上 彰洋

今回、全国頸損連絡会総会・大阪大会でシンポジウムの司会をさせていただきました田上彰洋と申します。私は6年前に交通事故で頸髄の一番二番を損傷し全身麻痺となり、人工呼吸器が必要となりました。呼吸状態は、日中起きていて身体の調子が良い時は、不完全ですが自発呼吸が出来るので呼吸器を外しています。高位頸髄損傷のため胸の筋肉や横隔膜などの呼吸に必要な筋肉がほとんど動かせないので、代わりに首や肩の筋肉を使って呼吸をしています。しかし眠ってしまうとそれが完全に停止してしまうので、就寝時や体調の良くない時は人工呼吸器が必要不可欠です。

事故後5つの病院を転々としてトータル2年半の入院の後、実家に帰り、現在実家で両親と生活をしています。入院期間2年半は長いように思われますが、車椅子生活のための住宅改造や在宅での呼吸器管理の学習など、自分も家族も初めて学ばなければならないことだらけでしたが、制度の都合上十分体制が整わない状態で追い出されるようなかたちで退院しました。

退院して自宅で生活をするようになり4年が経ちました。振り返ると、退院当初は僕も家族もどうやって生活をしていけばいいのか、どうやって生きていけばいいのか右も左も分からず、何をするにも

あらゆる事が試行錯誤で全く前に進まない状態でした。全身麻痺の私にとって、当時、呼吸器を使用する人が周りにいたなら、「こんな風に生活が出来るんだ。」とか「こんな事も可能なんだと。」と生活のイメージを掴むことが出来たり、可能性を見出せたのかもしれませんが、利用している訪問看護や診療所、デイサービスでも呼吸器を使用しているのは私だけのようで、参考と成り得る情報が全く得られず、自分の体の状態が極めてマイノリティーなのだと痛感しました。



帰宅後一番困った事は、緊急の際受け入れてもらえる病院の確保や入浴サービス、ヘルパー派遣の事業所など、呼吸器を付けているため断られるケースばかりで、母はずいぶん苦勞して市内中を探し回ったようです。何かがあった時、生命に直結する危険がある呼吸器使用者を受

け入れるのは、とてもリスクの高い事だから事業所や入浴サービスはなかなか受け入れてもらえないだろうと聞いてはいましたが、一歩進もうとすると壁だらけで、ここまで地域で生活していく事が厳しいものかと、家族皆が疲労困憊していました。



そんな状態から一年二年経って振り返ってみると、周りの人々や大阪頸損連の方々の助けやアドバイスで生活環境は少しずつですが良い方向に変わっていききました。自分で出来る事も一つ一つ増えていき、外に出る機会も多くなっていました。途中で障害を負うと、精神的に最初中々外に出られなくなってしまうのは障害の軽度重度関係ないみたいですが、それでも気管切開をして明らかに目立つ呼吸器を付けて人前に出るというのは、大変勇気のいることでした。頸損連の方に最初の頃半ば尻を叩かれながら外出回数を増やしていかなかったら、僕は未だに自ら外に出る勇気を持てず今でも引きこもりの状態だったと思います。外に出るようになって思うのですが、外に出れば、昔と比べて様々な不自由さを感じる事や落ち込む事、嫌な思いをする事も多々ありますが、それでも家の中に引きこもっ

て外界との接点がインターネットのみという生活より何百倍も世界が広がりますし、人の繋がりや感銘する機会も増え、次は何をしようかという気力が沸いてくると言うか心が前向きになります。

大会のシンポジウムを開催するにあたり、事前に他の3人のパネラーと生活状況をお互い把握しておいたほうが良いだろうという事で、現在の思いや困っている事など様々な意見交換をメールでやりとりしました。私は自分以外の人工呼吸器使用者とじっくり話をするのは今回が初めてでしたので、他の人の意見や考え方を聞くのはとても新鮮でした。年齢や受傷歴・生活環境は各々違いますが、家族に介護の大半を担ってもらい生活が出来ているという状況は皆同じでした。



感じた事は、同じような毎日が続く普段の生活の中で、私のような重度障害者が、気持ちのベクトルを前に向け積極的な生き方をしていくには何が必要だろうかと考えた時、それは、まず何かしらの目標を定める事だと思いました。車で言う心エンジンに火を入れるには？という感じでしょうか。それは小さな目標から大きなものまでたくさんあればあるだけ良いと思います。在宅介護が進めら

れている現在の日本で、全身麻痺の人工呼吸器使用レベルの障害者でも、家族が健康でその家族に介護の大半を強いたなら生きることとは何とか可能です。しかし、生きているだけは可能だという状況が何年も続くと、私の場合、最初抱いていた危機感や切迫感、恐怖感は徐々に薄れていき、気が付けばベッド上で寝ているだけの生活が可もなく不可もないように感じられ感覚が麻痺していき、気が付けば1年2年と只々月日だけが過ぎていました。退院後を振り返って「この2年間自分は何を成してきただろう？」と問うと、2年前から何も前進していない私がいて、その生活サイクルにどっぷり浸かりチャレンジする事を諦めていた自分がとても情けなく思われました。



ですから、今回の大会を通して、一つの目標（大会の成功）に向かってたくさんの人間が様々な形で協力し合い骨組みが徐々に形成されていく様を見て、すばらしいなと感嘆するとともに、今の自分に必要なのは単純でそれは目標なのだと思います。そして、常に目標を意識し、それに向かって自分はどうか努力しているか毎日自身に問えば、緊張感も生まれ、甘えた考えや誰かがしてくれるだろう的

な依存心も消え、今は心のベクトルが前に向いています。

私の願いは人工呼吸器使用者でも当たり前のように地域で暮らせる日本になることです。しかし願っているだけで実現できるわけでもなく、だから、今シンポジウムのように少しでも多くの人に訴え現状を分かってもらうことが肝要だと思いました。いつの時代も、弱者や少数派の意見は、軽視され受け入れられないことが往々にしてあるのが現実で、資本主義社会においてそれは仕方のないことだとも思いますが、それでも何か訴えていかないと、少しも現状は変わりませんし、変えていくのもまたマイノリティーの役割ではないかと思います。現在日本で、高位頸髄損傷などの障害を負い、人工呼吸器を付けて在宅で生活する人が増えています。これから新たに受傷し呼吸器が必要となるであろう人達とその家族に、私達家族が味わった苦悩や苦労をトレースしないような社会になるように私達は訴えています。この大会をきっかけに今回のようなユーザー自らが発信していく取り組みが今後各地域で繰り返し行われ、日本が変わっていく事を願っています。

プロジェクトX ～挑戦者たち～ 「これが浪速のおもてなしや！ 大阪アピール大作戦」

兵庫頸損連絡会 宮野 秀樹

全国頸髄損傷者連絡会・大阪大会も無事終えることができました。全国から参加してくださったみなさん楽しんでいただけたのではないのでしょうか。みなさんのご協力があってこそその盛会であったと、あらためて感謝いたします。本当にありがとうございました。

今回、私が報告するのは大阪大会の舞台裏です。成功裡に終えた大会の影に実行委員たちの感動のドラマがあった！！をお届けしたいと思います。断っておきますが今回はマジメです(笑)

○実行委員会

大阪大会を開催するにあたり、半年前から実行委員会を組織、赤尾広明実行委員長・北嶋司統括本部長の下、約 30 名の実行委員が各々の力を持ち寄り準備を進めていきました。我々兵庫メンバーも今回は大阪大会実行委員やシンポジストとして参加。大阪支部、兵庫支部と区別するのではなく、関西頸損軍団として大阪大会を表から裏からも盛り上げようという趣旨です。もうひとつ特徴的なのは、実行委員会の場においてもセルフヘルプをおこなうということ。経験者ばかりが準備を進めていくのではなく、日頃会活動になかなか関われない人や全国大会を経験したことがない人たちにも積極的に関わってもらい、一緒になって全国からの参加者を“おもてなし”しよう、というどこまでも暑苦しい関西スタイルはもはや定番といったところでしょうか。さらに普段会活動を支えていただいている協力会員やボランティアのみなさんも加わっての実行委員会ですから、当事者の目線だけではない大会準備になりました。

「You are not alone」と銘打って、初めて頸損の大会に参加する人には勇気と愛を、そして参加者・協力者全てにどこまでもコテコテの大阪を感じてもらうために、総力を結集させて大会に臨みました。でもひとつ付け加えるなら「全てが順調に進んだわけではない」ということでしょうか。

○シンポジウム

宮野は激怒した。必ず、このシンポジウムを時間通りに終わらせなければならぬと決意した。何事かと思われるかもしれないが、単に「走れメロス」の冒頭文をパクってただけです(笑)

参加された方でお気づきになった方はおられたでしょうか。今回のシンポジウムは会場の外を経験豊かな頸損者が、会場内を次世代を担う若手頸損者がスタッフとして配置されていたことを。いや単なる偶然だが、うまい具合にそうなった。会場までのアクセス案内は桜井さんが担当。そこに若き頸損者とボランティアも加わって各ポイントで参加者を出迎える。あいにくの雨降りの中、合羽をまとい重労働に就く。体温調節のできない頸損にとっては過酷であっただろう。お疲れさまです。会場に到着するとカツラを被った坂上さんが会場誘導を担当。フロアに滞留しないように2階会場へ誘導するのが重要な役目である。2階へ上がると受付で島本さんと三戸呂さんが対応。この日のために参加者把握を完璧にして笑顔での対応であったことは間違いない。受付を済ませると実行委員長・赤尾さんと統括・北嶋さん、そして場内担当のスーパーでグレートな宮野が血相を変えながら且つ作り笑顔で走り回る姿を見ることができたであろう。この時点で3人はパニックっていたのだ(笑) なぜかって？それは嬉しいことに予想以上の当日参加者が来場されたからですよ。

とにかく宮野は焦っていた。開始時間が刻々と迫る。計算違いで足りなかった区切り用養生テープを調達し、ギリギリ時間内で会場セッティング終了。場内担当ボランティアにも昼食を済ませてもらった。「これで大丈夫」と自らも昼食をとるべく控室へ。北嶋さんと三戸呂さんが同じく昼食タイム。「いよいよですね」と笑顔で会話。「おいおい早く揚げ物を口に入れてくれよ」とご機嫌さんで介助者に要求。揚げ物が口に入ろうとするその瞬間、今回のシンポジストであるダン・ルブラン

氏の通訳ボランティアが待ったをかけた。「この控室は暑くて騒がしいので別の控室を用意してもらえませんか？とダンが言っています。」目をそらす三戸呂さん。聞こえなかった振りをする北嶋さん。「...わかりました。ちょっと待っていてください。」心優しきスーパーでグレートなジャパニーズ・宮野は別控室の用意を交流センター側に交渉し見事確保。やはりオレは仕事のできる男。得意げに控室に戻り「HEY ダン！別控室を用意したよ！」と通訳に伝えると、通訳から「ダンはこちらが涼しくて良いらしいです。控室はもう結構です。」との言葉。通訳越しに廊下で涼んでいるダンの姿が目に入った。シンポジウムは開始 10 分前。宮野の昼食タイムは終わった…。揚げ物が寂しそうに微笑んでいた…。

時間を押してシンポジウム開始。壇上では進行の田上さんが緊張しながらも進めている。この大役に挑んだ田上さんが眩しい。池田さんも米田さんも吉田さんも輝いているよ。でもおかしい、なぜかおかしい...スーパーでグレートなオレだけがこんなに切ないなんて…。プログラムは順調。自分だけが担当をこなせていない苛立ちと空腹感に心折れそうになりながらも、時間通りにシンポジウムを終わらせた総合司会・宮野であった。

○レセプション

鳥屋は酔っていた。必ず、プログラム通りにレセプションを進行させることはないであろうと予感できた。予感は確信へと変わっていった。

レセプション開始 30 分前、宮野はシンポジウム会場で最終確認を終え、レセプション会場に向かっていました。宮野はレセプション会場内担当でもあったのです！できる男はツライよ...ホント。レセプションも時間押しで始まった。シンポジウムを無事終えた安堵感と 200 名もの参加者が集まったレセプションの緊張感に実行委員たちは浮き足立っていました。予想していた土壇場でのキャンセルと土壇場での参加申込み。どうさばくのか？そこは実行委員長・赤尾さんの出番だ。うまく振り分けたらちょうど満席の状態になりました。

レセプションの司会進行は統括・北嶋さん。会場準備も宮野に代わってやってくれたのも北嶋さ

ん。ダンの要望を聞こえなかった振りをしたのも北嶋さん。頼れる男・北嶋さんがレセプションを仕切る。巻き気味で進行し時間の遅れを取り戻そうとしている。しかし、お酒が入った時点から少しずつ流れがおかしくなり始めた。

焼酎をもう一杯飲もうとドリンクコーナーに向かうと、何やら奇妙な物体がモゾモゾと動いている。ピンクのナース服を身にまとおうとしている物体と目が合ったが、知らないふりをしてみた。奇妙な物体はそと宮野の膝の上にメイド服を置く。大阪事務局長と兵庫事務局長が無言で着替える。苦笑いする両介助者。失笑するホテル従業員。ここから暴走が始まる。次々と感染した実行委員たちは諦めたようにコスプレへと変身。兵庫頸髄損傷者連絡会設立 5 周年の挨拶ではタイ焼きとメイドが熱く語り出す始末。暴走王・鳥屋さんは北嶋さんからマイクを奪い、時間を無視してグダグダの司会を展開。関西軍団恐るべしである。



タイ焼き&メイド - これからの兵庫を熱く語るの図 -

○最後に

舞台裏と言いながらよくわからない報告となっていました。伝えたかったことは、大変ではあったけれども楽しかったということ。参加者をどこまでももてなし楽しませることに本気で取り組んだ実行委員会メンバーの努力は言葉では伝えきれません。でも、高位頸髄損傷者・人工呼吸器ユーザーが企画・運営の両面に携わってこそ果たせた大会であったと、参加者・関係者みなさん誰もが容易に認識できたことだと思います。そしてセルフヘルプグループの重要性をさらに高めることができた全国大会ではなかったでしょうか。

頸損連絡会に入会して

東京頸損連絡会 山内 俊博

皆さんはじめまして。このたび東京頸髄損傷者連絡会に入会しました山内俊博と申します。これまで頸損者連絡会には入っていませんでしたが、今年5月の全国総会で「地方の頸損者の生活」について発表をさせていただいたのをきっかけに入会しました。それと同時に、いきなりこの全国機関誌に載せる自己紹介文の依頼を受け、正直何を書いていいのか戸惑っているのですが、とりあえず自己紹介も兼ね、私の住む魚沼のことや、今の活動について書かせていただきます。

私は現在33歳で、大学3年だった平成8年に交通事故で頸損(C4、C5)になりました。新潟市の病院に約2年半入院したあと、全国的にも有名な魚沼産コシヒカリの産地である新潟県魚沼市の自宅で両親と一緒に生活しています。

入院中に自立生活センター新潟の会員になり、そこで自立生活の考え方や、これまでの障がい者運動の歴史を知ったことがきっかけで、自立を意識するようになり、将来自分の生まれ育ったこの地域で自立した生活を送りたいと思い活動をしています。

しかし、そうはいっても魚沼は田舎、自然は豊かですが、都市部に比べればヘルパー事業所もヘルパーの人数も少ない、公共交通は障がい者にとってあってないようなもの、障がい者の生活に対しても、「障がい者に自立は無理」「障がい者は家族に面倒を見てもらうか、施設で暮らすのが当然」という考え方が、まだまだ根深くあります。さらには毎年2メートルを超えるような大雪などの自然環境も厳しい。いくら自立したいと思っても、そう簡単にはいかないの



が現実です。

ただ、都市部でも地方でも、障がい者が声を出さずに、自立できる環境を作ってきた地域なんてないと思うし、魚沼でも最初から諦めて何もしなければ結局何も変わらないだろうという思いから、自立生活センター新潟の協力を受け、これまでセミナーやシンポジウムなどを開催してきました。去年は魚沼市で初めての自立生活プログラムを開催しましたし、10月には中越地震から3年ということで、障がい者が地域で安心して暮らすために災害時の備えをどうするかという趣旨のシンポジウムもNPO法人ゆめ風基金との共催で開催しました。なかなか思うようにはいかず、このまま活動を続けて、魚沼で重度障がい者が自立できるようになるのだろうかと思えばばかりですが、それでも少しずつ人のつながりは広がっているし、「何もしなければ、何も変わらない」という思いを強くもって、活動を続けていきたいです。

これをきっかけに全国の皆様とも、多くの場面で情報交換などができればうれしいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

支部紹介

静岡頸損連絡会の現状と課題

静岡頸髄損傷者連絡会 代表 井出一史

静岡頸損も発足して16年経過しました。発足趣旨は、他支部同様退院後の頸損者に対する情報提供や社会参加のノウハウを実践者（先輩頸損者）から伝えることとし、機関誌「ごむて」では「おじゃま虫」コーナーを設け、会員の生活の工夫ぶりを紹介したり、お泊まり会などを開催して社会参加への自信と切っ掛けづくりの場を提供したりしてきました。新聞などでボランティアとして協力会員も募り、少しずつ組織も拡大していき一時は総会員数が100名を超えるほどになりました。



しかし、「市町村障害者生活支援事業」が開始した時期から、次第に地域のCILや関係機関を拠点に相談支援やヘルパー派遣の事業展開にパワーを傾ける会員が増え始め、現在ではリーダー不足により会自体の存続も危うい状況とまできてしま

いました。しかし入院期間が益々制限されてきている昨今では、医療行為のみで十分なりハビリテーションも受けられず家庭復帰を余儀なくされる頸損者にとって、地域における自立支援機関としての頸損連絡会の必要性は益々高まっている現状があります。このような状況について会員に問うてみれば、ほとんどの会員が会の必要性を認めているものの、しかしながら執行部を引き受けようとする声はなかなか上がらないのが現状です。

いろいろ思案しましたが、頸損連絡会でスキルを上げ、それぞれが地域に戻りCILやヘルパー派遣事業で活躍していることは、それはそれで嬉しいことであり、静岡頸損のこれまでの活動の成果としても評価できることだろうと思いますが、今後の課題とすれば会員の増強はもちろんのこと、次期リーダーの発掘あるいは養成だろうと考えています。

写真は会員数19名という衰退した現状の中で実施したお泊まり会の一コマですが、もう一度華やかな静岡頸損が復活するよう私自身相談役を返上して、とりあえず一年間の暫定期間における代表を引き受けることにしました。次期リーダーに何とか静岡頸損を引き継ぎたいと思いますので、まずは今年一年どうぞよろしくお願いいたします。

お 役 立 ち

～WEB サイト～

お出かけなどに公共交通機関などを使うときに便利なサイトです

【らくらくおでかけネット】

<http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/>

外出先のトイレが気になる方に

【Check A Toilet】

<http://www.checkatoilet.com/>

【多目的トイレマップ】

<http://wc.m47.jp/>

書店では見つけにくい障害者に関する書物を探せるサイトです

【障害関係図書の専門書店 スペース96】

https://www.space96.com/php/user/index_read.php?store_id=space96

【メテオ・メディカルブックセンター】

<http://mbc.meteo-intergate.com/>

障害者情報提供団体紹介ウェブサイト

【全国自立生活センター協議会】

自立生活情報満載(全国 CIL 所在地一覧も掲載)

<http://www.j-il.jp/>

【全国障害者介護制度情報】

各自治体での介護制度の作り方、受け方情報

<http://www.kaigoseido.net/>

【DPI 日本会議】

世界規模の障害者ネットワーク “日本会議”

<http://www.dpi-japan.org/>

【日本せきずい基金】

脊髄・頸髄損傷の医学的治療をめざしての活動

<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/>

【はがき通信】

四肢麻痺者・家族の(隔月)情報誌

<http://www.normanet.ne.jp/~hagaki-t/PCC1.htm>

大容量ファイル受け渡しサービス

【宅ふぁいる便】

<http://www.filesend.to/>

～書籍 紹介～

頸髄損傷者のための自己管理ハンドブック



頸髄損傷のある方が、自ら生活管理するために必要なことを、生活場面ごとに紹介。「どうすればうまくできるか」そのコツと工夫、動作獲得のための訓練、自助具などを、写真とイラストを使ってわかりやすく解説した。本人はもちろん、介護を行う方にとってもヒントが満載。

出版社：中央法規出版

販売価格：2940 円

旅の夢かなえます—だれもがどこへでも行ける旅行をつくる



旅の夢かなえます—だれもがどこへでも行ける旅行をつくる(ドキュメント・ユニバーサルデザイン) 四六判・フランス装・182 ページ

発行元：読売工房 03-5988-9160

テキストデータをご希望の方には、本文データを収録したCDを同封して販売

いたしますので、お手数ですが、購入の際「データCD希望」とお伝えください。(直接販売のみ)

出版社：大日本印刷

販売価格：1680 円

東京頸損連絡会の萩澤さんのフィリピンの話、自立生活・電動車いす、旅行、バリアフリー(写真あり)についてわかりやすく書いてあります。小学生高学年～高校生向きの本です。

子供さん、甥や姪、知人にプレゼントしても良いと思います。

「福島頸損友の会」発足!!

報告：大阪頸損連絡会 鳥屋利治



「福島頸損友の会」のメンバー 結成お披露目式 ホテルサンルート白河(7/19)

頸損の集まりやネットワークがなかった地域に「頸損友の会」が立ち上がった。福島県の南部に位置する西白河郡西郷村。ここに住む頸損の相山敏子さんは、今から5年前の2003年にこの地で自立生活を開始させた。大阪頸損連絡会と相山さんの関係は、同じ年の2003年全国頸損大阪大会で出会って以来となる。当時、遙か福島県から大阪まで必死の思いで大会に参加してくれた相山さん、その後も支援費制度、自立支援法と障害者施策の揺れ動くなかで、福祉サービスが充実していない、地方に暮らす重度障害者の自立生活の苦しさを時折知らせてくれた。

今回の福島交流会は、ここ数年カナダへ頸損で人工呼吸器を使う重度障害者の

自立生活の状況がどうなっているかを見に行ったりしていた私に「カナダに行くなら、こっちにも来てよ」という冗談とも本気とも取れる相山さんの一言からはじまった。福島という、都心部ではない地方で暮らす重度障害者は、介助派遣の事業所もヘルパーも少ないなか、十分な福祉サービスが受けられず大変な思いで暮らしている。全国で活躍してる同じ重度な障害を持つ仲間が来てくれたら地方で暮らす障害者も元気づくし、周囲の障害者に対する見方や意識も変わってくるかもしれない、そんな相山さんの思いだった。「わかりました。では何人かで福島に寄せてもらいます。せっかくなので相山さんのほうでは地元の頸損の方たちにできるだけ多く声をかけてもらって交流集会にしましょう。」とこちらの思いを伝

えた。一度私たちが訪問したからといって何かが変わるわけではなく、やはり地元の頸損者が、重度な障害当事者が、その後も定期的に集まりを持ったりネットワークを築いていくことが地方という厳しい環境のなか、生きていくのには重要だと思った。重度障害者が点と点の存在となってしまうまいよう、つながりあって力を合わせて厳しい環境を変えていかなければ何も変わらないと思った。

相山さんは、地元福島県の頸損仲間や支援者に声をかけて、この交流集会の企画をもっと大きなイベントにしたいと決意し、先日5月の全国頸損大会でも福島でのイベント開催の宣言とPRを皆の前で告げた。



全国大会の場で福島でのイベント開催を宣言された相山敏子さん

その後6月には、相山敏子さん（西郷村）、柴田努さん（福島市）、渡部洋祐さん（只見町）、渡辺富士男さん（いわき市）、豊田智子さん（矢祭町）、佐藤孝造さん（伊達市）らによって「福島頸損友の会」が

結成され、ひだまりハウス、NPOしらかわ市民活動支援会の協力もあって、あれよあれよという間にとっても大きなイベント企画となった。



7/19 福島頸損交流会第1部シンポジウムで自立生活に向けての実践報告をされた東京頸損連の鴨治慎吾さん



福島の各地域から参加された皆さん

7月19日福島頸損交流イベント当日。全国頸損連絡会からは神奈川支部、東京支部、栃木支部、兵庫支部、大阪支部の有志らが東北新幹線に分散して乗り、新白河に向かった。交流イベントの第1部は、全国頸損連絡会メンバー各人からの報告発表として、兵庫支部の宮野さん、神奈川支部の伊藤さん、星野さん、東京支部の鴨治さんらが自身の自立生活状況や各地元での取り組み実践例などプロジェクターを使って報告した。さらにその後、第2部交流レセプションでは、「福島

「頸損友の会」の結成を皆で祝い、乾杯のグラスが新たな歩みの決意のように心地よく参加者全員の胸に鳴り響いていた。地域を越え、おかれたそれぞれの立場を越え、東北福島の地にて夏の夜遅くまで熱く楽しく交流が続けられた。



第2部レセプション交流会の様子



二次会 相山さんや福島の皆さんと
大盛り上がりのカラオケ大会

今回の福島頸損交流イベントでは、当初考えられたものよりもはるかに大きな成果があった。まずは「福島頸損友の会」の発足で、福島に頸損者ネットワークの土台ができあがったこと。これによってひとりで悩む、あるいは孤立奮闘の頸損当事者をなくしていくことになるだろう。そしてもう一つ、相山さんをはじめとするイベントを作っていかれた方たちのように、意志を持って動けば必ずそれを応援してくれる人たちが集まってくれる。支援会の方たち、多くの学生ボランティアの皆さん、そして会場ホテルサンルート白河の協力まで、みんな「ひとりじゃない...」というのが認識しあえたイベントとなった気がする。私も多くのことを学んだ。この交流イベントを成功させた、相山さんや福島頸損友の会メンバーの皆さんに敬意を表するとともに、さらに今後の動きを注目していきたい。



交流レセプションで自己紹介される「福島頸損友の会」の皆さん

「財政再建の名のもとに…」

大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾広明

180万票という圧倒的な支持を得て誕生した橋下大阪府知事は危機に瀕する大阪府の財政を立て直すために「財政非常事態宣言」をしました。その後、知事が立ち上げた改革のプロジェクトチームは大阪府のすべての事業について聖域なくゼロベースで見直すことを掲げ、4月11日にそのプロジェクトチームがまとめた財政再建プログラム試案(以下「PT案」)が発表されたのですが、これが私たち障害のある者にとって驚愕の内容だったのです。たとえば、バリアフリーにするための住宅改造助成は今年8月で廃止、精神障害者通院費公費負担は11月で廃止、移動支援と日常生活用具については大阪府からの補助が今年度10%削減で来年度からは廃止、重度障害者医療費助成は上限額が現行の1000円から2500円に上がって償還払いに変更されるなど、私たちの生活に直結する施策に「削減」とか「廃止」という言葉が並んでいたのですね。今後9年間で6500億円、今年度はまず1100億円を削減するのですが、そのうち障害者関連施策は16億円カットされるというから、今度は私たちが非常事態宣言をしなければならず、大阪府下にある19の障害者団体が障害種別を超えて連名する「知事に届けよう！障害者や家族の想い・大阪ネットワーク」(大阪頸髄損傷者連絡会も連名)の呼びかけで5月13日にPT案の撤回を求める緊急アピール集会を実施し、いわゆる“人間の鎖”で大阪府庁を取り囲みました(新聞記事参照)。

6月5日の夕方にPT案の各事業に具体的な数字を盛り込んだ正式案「大阪維新プログラム」として橋下知事から発表されました。障害者関連施策についてはアピール

集会の成果もあって概ね押し戻すことができたのですが、しかし、その多くが「今年度は見送り」というものだったし、PT案の俎上に載ったことは事実なので、今後も財政再建という名のもとに削減を目的とする第2第3のPT案が出て来るのは確実と思われます。だからこそ、何としても全面的に撤回させる必要があったのです。



橋下知事は「障害者の生活を守ることは行政の最大の責務である」と最終協議の場で健康福祉部に向かって力強く主張しました。知事が本心でそう思っているなら、そもそも俎上には載らないはずだし、絶対に手をつけてはいけない「福祉」「医療」「教育」「治安」の分野にメスを入れることもなかったはずなので、こんな言葉、とても信用できません。

府民...いや、国民の安心安全な暮らしを守るのが責務であることは当然であって、財政がどんな状況下にあってもセーフティネットは絶対必要です。そういう意味で今回のPT案は私たちの生活を脅かし、一度聖域に手を着けたことで私たちは「今後もあるかも・・・」という消えない不安にさらされました。見送りはあくまで見送り

であって、障害者自立支援法の見直しがある来年に合わせて再び障害者施策にメスが入るかもしれません。もうこれ以上痛みを押しつけるような改革には耐えられないので、何としても“待った”の声を挙げて、最低限のセーフティーネットを堅持しなけ

ればなりません。そのために今後も大阪府政の動向を注視する必要がありますし、これは決して大阪府民だけの問題ではなく、大阪でこの改革が成功すれば他府県の知事も同様の財政再建を実施するかもしれないだけに、大阪の動向を見ておいてください。

橋下さん、障害者の声聞いてや 3千人が府庁包囲 Asahi.com 2008年5月13日

大阪府の橋下徹知事が進める1100億円の財政再建案をめぐり、障害者やその家族ら約3千人が13日、府庁を取り囲んだ。再建案は重度障害者の医療費助成や、バリアフリーを進める住宅改造助成などの廃止・縮減を打ち出しており、「このままでは生活ができなくなる」と訴えた。

府庁を取り囲んだのは、19の障害者団体などで作る「知事に届けよう！ 障害者や家族の想(おも)い・大阪ネットワーク」。人垣は大阪市中央区の府庁の周囲数百メートルにわたり、車いすの人も多く参加。「御堂筋のライトアップよりも障害者の暮らしが明るくなるように」「障害のある子どもたちの笑顔を奪わないで」などと書かれたプラカードを持ち、「障害者の声を聞

いて」「補助を削らないで」との声を一帯に響かせた。

府の改革プロジェクトチームが4月に出した削減案では、障害者が少人数で共同生活するグループホームの支援事業や就労支援事業なども廃止・削減の対象になっている。同ネットワークはこの日府庁を訪れ、橋下知事あてに「最低限のセーフティーネットとして存続してほしい」とする緊急要望書を提出。午後からは府議会各会派にも要請して回る予定だ。

参加団体の一つ「障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議」の古田朋也事務局長(46)は「障害者の生活基盤が奪われる切実な問題だ」と話している。



大阪府の財政再建案に、「生活できない」と訴える障害者とその家族たち＝13日午前、大阪府中央区、伊藤恵里奈撮影

熱中症の病型と救急処置

東京頸髄損傷者連絡会 三上功生（東京理科大学）

私は大学で長年にわたり、頸髄損傷者の方々の体温調節機能と温熱環境に関する研究を行っています。少しずつではありますが、研究成果がまとまって参りましたので、本誌を通して定期的にご報告させていただきます。

今回は早速第1回目の成果報告を考えていたのですが、まだまだ暑い日が続いていることから、熱中症の病型と救急処置について述べてみたいと思います。従いまして、成果報告は次号からとさせていただきます。頸髄損傷者の方々の多くは、体温調節機能に問題を抱えていることから、熱中症への関心も高いかと思います。救急処置の方法などは、ぜひ参考にしてみてください。

熱中症の病型

熱失神

暑熱環境下では、体温調節のために皮膚の血管が拡張します。この皮膚血管の拡張によって血圧が低下し、脳への血流が減少しておこるもので、めまい、失神などがみられます。脈が速くて弱くなり、顔面そう白、呼吸回数の増加、唇のしびれなどもみられます。



熱疲労

大量の汗をかき、水分の補給が追いつかないと脱水がおこり、熱疲労の原因となります。熱疲労

では、脱力感、倦怠感、めまい、頭痛、吐き気などの症状がみられます。汗からは塩分も失われ、塩分を補給しないと水を飲んでも脱水を回復することができず、熱疲労の症状が回復しません。



熱けいれん

汗をかくと水と塩分が失われます。汗の塩分濃度は血液の塩分濃度より低いため、大量の汗をかくと血液の塩分濃度は高くなります。大量の汗をかき、水だけを補給した場合には反対に血液の塩分濃度が低下し、その結果、足、腕、腹部などの筋肉に痛みを伴ったけいれんがおこります。暑熱環境下で長時間の運動をして大量の汗をかく時におこるものです。



熱射病

高温環境下で激しい運動を行うと、運動により発生した熱が体表面から放散できず体温が上昇

し、その結果、脳の温度が上昇して体温調節中枢に障害がおよぶと熱射病になります。熱射病は異常な体温の上昇（40 以上）と種々の程度の意識障害（応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない）が特徴で、頭痛、吐き気、めまいなどの前駆症状（病気や発作の前兆としてあらわれる症状）、ショック状態などもみられます。また、全身臓器への血管がつまって、脳、心、肺、肝、腎などの全身の臓器障害を合併することが多く、死亡率も高くなります。



熱中症の重傷度は、熱失神＜熱疲労＜熱けいれん＜熱射病となります。

熱中症の救急処置

熱中症では予防が大切です。暑い時には熱中症の兆候に注意し、おかしい場合には早めに休むことです。また、万一の事故に備えて救急処置を知っておくことも重要です。

各病型での応急処置を以下にまとめました。実際には、このような病態が重なり合っていることもあり、現場で熱疲労か熱射病か判断に迷うことも十分に考えられます。その際注意すべき症状は意識状態と体温です。

軽い意識障害では、意識があるものの応答が鈍かったり言動がおかしかったりすることがありますが、少しでも意識障害がある場合には重症と考えて処置する必要があります。意識がない場合には、心停止や頭部外傷のこともあり、呼吸があるか、脈が触れるか、頭を打っていないかなどに

注意します。

熱失神、熱疲労

涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせ、水分を補給すれば通常は回復します。足を高くし、手足を末梢から中心部に向けてマッサージをするのも有効です。吐き気やおう吐などで水分補給ができない場合には病院に運び、点滴を受ける必要があります。

熱けいれん

生理食塩水（0.9%）を補給すれば通常は回復します。

熱射病

命の危険のある緊急事態です。体を冷やしながら集中治療のできる病院へ一刻も早く運ぶ必要があります。いかに早く体温を下げて意識を回復させるかが予後を左右するので、現場での処置が重要です。

熱射病が疑われる場合には、直ちに冷却処置を開始しなければなりません。冷却は、皮膚を直接冷やすより、全身に水をかけたり、ぬれタオル当てて扇ぐ方が気化熱による熱放散を促進させるので効率がよくなります。また頸部（首）、脇の下、太ももの付け根などの大きい血管を直接冷やす方法も効果的です。またとっさの場合、近くに十分な水分が見つからない時の効果的な体の冷却方法として、次のことを実行してください。水筒の水、スポーツドリンク、清涼飲料水などを口に含み、患者の全身に吹きかけてください。全身にまんべんなく吹きかけることにより、汗による気化熱の冷却と同じような効果をもたらします。これらの液体は冷たい必要はありません。

また熱射病では合併症に対して集中治療が必要ですので、このような冷却処置を行いながら、設備や治療スタッフが整った集中治療のできる病院に一刻も早く運ばなければなりません。

熱射病は、命の危険が差し迫った緊急疾患であることを十分に認識してください。

第35回 国際福祉機器展 H.C.R. 2008

ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで、世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会。保健医療・福祉・介護の各分野の制度改革や、事業活動を紹介する国際シンポジウム、セミナーなどもあります。

2008年9月24日(水)～9月26日(金) 東京ビッグサイト(東京・有明)

ホームページ <http://www.hcr.or.jp/exhibition/index.html>

【国際福祉機器展の中で当事者向けセミナー(3日間の1日のみ)を行います】

テーマ:「間違いだらけの褥瘡予防」(仮)

主な参加対象: 障害を持つ当事者、エンジニア、支援者、OT、PT、ヘルパー

褥瘡予防を人任せにいませんか? 自分に適したクッションの調整やエアマットの使い方、シーティングを知っていれば、ヘルパーさんに的確な指示をすることができます。身体も生活も違うのでエアマットの使用や福祉用具の種類なども異なり、それぞれの適合がありますが、事例紹介や用具の活用を通して情報を共有するためにもう一度みなおしてみましょ。参加申し込み不要。無料 *この企画の日時・会場等はまだ未確定です。国際福祉機器展ホームページや案内等でご確認の上ご参加下さい。よろしくお願いします。

主催 日本リハ工学協会 担当 荻澤 孝

「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2008」開催される!

～福祉を支える人とテクノロジーの総合展～

2008年6月26日～28日 会場 パシフィコ横浜

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランドは、これからの福祉には人とテクノロジーの調和がより求められてくるという観点から、福祉の分野を中心とした最新技術の紹介や自立と社会参加(リハビリテーション)の将来性・可能性を、広く紹介するイベントです。障害者や高齢者だけでなく、21世紀の主役となる子どもや学生たちが、このイベントに参加することによって、福祉を支える人とテクノロジーに対する関心を抱き、未来への希望や夢を醸成していくことを目的として実施します。

レポート 東京頸損者連絡会 荻澤 孝

【上肢機能支援ロボット】(セコム)

(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)
障害を持つ人のために、上肢(腕)の代わりとして機能するロボットアームが展覧されていました。

1. 落とした物や棚の上の物を取ったり、コップを口元へ運ぶなど、様々な日常生活動作をサポート。
2. 多様な身体症状に合わせられるよう操作装置を開発。
3. 国際規格リスクマネジメントに基づき安全性を構築。

<http://www.jara.jp/index.html> (動画あり)

頸髄損傷(C4)レベルの私としては、ぜひぜひ使ってみたい支援機器のひとつです。これから、機能面・安全性・大きさ・価格など、まだまだクリアしなくてはならない課題がたくさんあるそうです。将来、多くの頸髄損傷者が上肢機能支援ロボットを使いビールジョッキを片手? に語り合うなんて夢じゃないかもしれないですね～



「めざそう バリアフリーを」

全国顚髓損傷者連絡会相談役 今西 正義

「21世紀は障害者のノウハウが活かせる時代」を先取りして、障害者自らがバリアフリー講師や、またバリアフリーチェックや会議等での確な評価・意見ができる人たを養成するための研修がスタートしました。DPI日本会議が呼びかけとなって、昨年度11月と3月の2回（計4日間）に亘る交通バリアフリーに関するリーダー養成「バリアフリー障害当事者リーダー接遇研修」が実施されました。

ご存じのように、交通バリアフリー法が施行されて8年が経過しました。その間、鉄道・電車・地下鉄・バスなど交通環境の整備は進んできましたが、その多くは大都市に集中しています。また、整備が進んだ大都市でも基準通りに作られてなく使いづらいものがあったり、平然とバスへの乗車拒否がされたりしているのが現状です。一方で地方の都市では未だに基本構想の策定の考えすらないところが多く、また鉄道やバス路線の廃止など、地域移動の足すら奪われる状況がおきています。こうした状況を改善させていくには、障害当事者自らが「基本構想を作らせると何がわるのか」「バリアフリーチェックによる気づき」「鉄道やバスの基準はどうなっているのか」など、基礎的な知識と実行力を備えていくことです。

昨年度の研修には、東京、名古屋、大阪や北海道、岩手、仙台、静岡、岡山、広島など全国各地より29名の車いすや電動車いす、白杖や盲導犬を連れた視覚障害の人たちが参加しました。いずれの人たちもバリアフリー新法の市区町村基本構想やバリアフリー関連計画に十分参画できていないこと。一方で、バリアフリー新法や様々な移動円滑化基準・ガイドラインとの関連性



について十分に理解できていないことも明らかになりました。しかし、鉄道やバスを利用する上でのバリアは、それぞれの地域で直面している大きな問題でバリアフリー化への取組も障害当事者として、障害当事者団体として、積極的に取り組んでいることも分かりました。

今年度の研修も前回に引き続き内容と同じくし、鉄道やバス乗車で一般乗客として扱われなかった時代からの当事者運動の30年を顧みながら、バリアフリー新法をはじめとした移動円滑化基準やガイドラインについて、さらに肢体不自由者、視覚障害者、内部障害者、精神障害者など障害別の接遇の手法等々を学びます。国土交通省の担当官、基本構想策定委員長として著名な先生方、さらには長い間運動を牽引してきた障害当事者の人たちを講師陣として迎えそれぞれの立場から講義が行われます。研修生には、これらの講義を通じ社会のバリアフリー化に向けた取組で障害当事者の役割の重要性についてしっかりと学んでもらうこと、また交通アクセス運動の新たなリーダーとなることを期待しています。

また研修後には、研修共催の「エコロジー・モビリティ財団」が鉄道とバス事業者を対象とした「交通事業者向け接遇研修」の講師など活躍の場も考えています。是非とも全国の顚損者の参加を待っています。

障害者の権利条約が発効 128 カ国署名、批准 25 カ国

asahi.com 2008 年 05 月 04 日 18 時 08 分

【ニューヨーク＝松下佳世】障害者への差別をなくし、社会参加を促す「障害者の権利条約」が 3 日、発効した。締約国は、差別をなくし、教育や雇用などあらゆる分野で障害者に健常者と同じ権利を保障する義務を負う。

同条約は 06 年末国連総会で採択。これまでに 128 カ国が署名、25 カ国が批准した。障害者は世界に約 6 億 5 千万人いるとされる。

潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は「すべての人の普遍的人権の実現における歴史的な瞬間だ」と発効を歓迎した。

同条約は、障害者のための新しい権利を定めるのではなく、差別をなくすことで、障害者が人権や基本的自由を完全に享受できるようにすることを目指している。建物や交通機関のバリアフリー化、公共サービスや施設の利用、情報の入手などの「アクセシビリティ」（利用しやすさ）を重視しているのが特徴だ。

日本は昨年 9 月に署名したが、関連法の改正などが必要で、批准にはしばらくかかる見込み。

訪問介護事業所が減少 08 年 3 月、前年比 562 減

Asahi.com 2008 年 05 月 10 日 03 時 03 分

介護保険制度で在宅系サービスの中心となる訪問介護の事業所数が減少に転じたことが、福祉医療機構の集計でわかった。閉鎖や統廃合が進んだため。06 年度の介護報酬の切り下げで経営が悪化、低水準の賃金がさらに抑制されヘルパーらの離職が増え、新規利用者を受け入れられないという悪循環が背景にある、と専門家らはみている。

ホームヘルパーを派遣する訪問介護事業所は、制度開始直前の 00 年 3 月末には 9174 カ所でその後毎年増えてきたが、今年 3 月末は前年比 562 減の 2 万 7020 カ所だった。

昨年 6 月からは 4 カ月連続で減った。最大手コムスンへの処分が発表され、規制強化でコムスンや他の事業所が廃業した影響と見られるが、その後やや回復した後、昨年 12 月から再び減少している。「コムスンショック」ではなく、慢性的な経営難で事業所が耐えきれず閉鎖したり、統廃合したりするケースが顕著になっていると考えられる。

在宅系サービスでは、ケアプランを作る居宅介護支援も前年から 435 減の 3 万 2041。施設で食事や入浴を提供する通所介護（デイサービス）は 1233 増の 2 万 2676 だった。

服部万里子・立教大学教授（高齢者福祉論）は「日本の在宅福祉を支えてきたのは訪問介護サービス。相次ぐ事業所閉鎖は介護保険の崩壊につながりかねない。事業所の経営を安定させ、ヘルパーが誇りを持って働き続けるには介護報酬のアップが必要だ」と話す。

小笠原バリアフリー情報

アクセス東京からの転載版

東京都小笠原父島に住んでおられる電動車いすユーザーで、交通バリアフリーにも取り組んでいる大久保さんが、小笠原のバリアフリー・アイランド化計画や小笠原ウェルカム情報満載のホームページをつくられました。ぜひ、ぜひ、ご覧下さい。

大久保さんのメッセージ

「小笠原のバリアフリーの事で、ホームページを作ったのでよかったらパソコンで見てください。小笠原のバリアフリー化のきっかけになればうれしいのですが。」

<http://ogasawarabfree.web.fc2.com/>



トヨタレンタリース東京限定

『ウェルキャブ地域社会活動無料サービス』

日頃お世話になっている地域社会のお役にたてるよう、
『お身体が不自由な方』や『高齢者の方（65歳以上）』を
対象とした社会貢献活動的な催し／活動に対し、「ウェルキャブ
(福祉車両)レンタカー」を無料で提供させていただきます。

http://www.toyota-rl-tyo.co.jp/frameset/top_rent_welcab_cam.htm

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(08.07 現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田 2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル 5F

TEL&FAX 03-3208-1655 e-mail: keisonren@ne.nu

<http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:菊地方 頸損連絡会
各支部、地区窓口の住所は本部にお問い合わせ下さい。

全国頸髄損傷者連絡会・北海道地区窓口

〒069-0853

北海道江別市大麻高町 6-11(川原方)

TEL&FAX 011-387-7190

「北海道頸髄損傷者連絡会」は支部活動を停止し、体制変更しました。

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508

栃木県宇都宮市若草 1 丁目 10 番 6 号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp

<http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒143-0015

東京都大田区大森西 3-10-3-101(宮原方)

TEL&FAX 03-3766-6084 e-mail:keison5@khe.biglobe.ne.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828

神奈川県相模原市麻溝台 696-1 ライム 106 号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

<http://www.k-sonet.jp/>

静岡頸髄損傷者連絡会

〒426-0016

静岡県藤枝市郡 1-3-27 NPO法人 障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7011 FAX 054-641-7181 e-mail:matunosuke@ca2.so-net.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035

愛知県名古屋市昭和区松風町 2-28 ノーブル千賀 1F AJU自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006

岐阜県大垣市加賀野 4-1-7 ソフトピアジャパン 702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~yume/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒612-0031

京都府京都市伏見区深草池ノ内町 12 ハイツ青風 3A(古屋方)

TEL 075-645-5818 e-mail:keison@ev.moo.jp

<http://keison.moo.jp/>

〒534-0027

大阪府大阪市都島区中野町 3-4-21 ベルエキップ・オگران 1 階 自立生活センターある内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:okeison@yahoo.co.jp

<http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒674-0068

兵庫県明石市大久保町ゆりのき通 2 丁目 3-5-1-205(三戸呂方)

TEL&FAX 078-934-6450 e-mail:hkeison@yahoo.co.jp

<http://hkeison.hp.infoseek.co.jp/>

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒791-2120

愛媛県伊予郡砥部町宮内 394 (有)アイベックエヒメ内

TEL 089-960-7730 FAX 089-960-7731 e-mail:skazu9@peach.ocn.ne.jp

<http://www4.ocn.ne.jp/~keison/index/index.htm>

全国機関誌「頸損」電子版の提供について

全国頸損連絡会では、これまで冊子版の機関紙「頸損」を会員の皆様にお届けしてきました。しかし近年、頸損会員の重度化が進み、電子版の機関誌を求める声が届くようになりました。

そこで「頸損 95 号」より、高位頸損会員の方へ電子版（PDF 版）を提供できるようにしようという事になり、PDF 版を作成しました。PDF 版の機関紙「頸損 95 号」が欲しいという会員の方がおられましたら、本部下記アドレスまでご連絡下さい。電子版作成の準備として、バックナンバーの「頸損 92 号、93 号、94 号」も PDF 版を作成しました。必要な方は申し出て下さい。

会員の方には無償提供いたします。（CD 版は実費請求）会員でない方には、送料 + 機関紙頒布価格にて提供します。

電子版「頸損 95 号」問い合わせ先

全国頸損連絡会本部 BXN06214@nifty.com（担当：八幡）

電話、ファックス 042-651-3087（八幡）

今後、電子版（PDF 版）の提供を、会員の方々にスムーズに行っていくために、全国頸損連絡会本部ホームページからダウンロードできるようにするなど、システムを完備していきたいと考えております。

随時、機関紙等でお知らせしていきますので、よろしくお願いいたします。

私は最近、珈琲にこっています。昔はどちらかと言えば紅茶派で、珈琲と言えば、仕事の休憩時に一服しながら飲むポッカのショート缶ぐらいだったのですが...

今住んでいるマンションに引っ越して来てから、ベランダの

洗濯物を取り入れる際に窓を開けると、近くにある珈琲豆屋さんから、風に運ばれてくる、煎った珈琲豆の香りがいつも気になっていました。

そんな時、たまたま使っていない珈琲メーカーが実家にあることを知り、これはと思い持ち帰り使ってみることにしました。早速、珈琲豆屋に駆け込むと、またこれが奥の深いこと。皆さんもご存知のブルーマウンテンからブラジル等、何十種類

もの豆の数で、びっくり！ せいぜい数種類と思っていたのに... そして煎り方や挽き方、またブレンドすることによって見た目は、あまり変わら

ない豆が、味も香りも変わる事を知りました。アイスもあればホットもあり、それぞれ

入れ方も違ったりして、たかが珈琲されど珈琲、なかなか難しい、だけど楽しいものです。

なんだか私達と一緒に十人十色ですね。

まだ自分の望む珈琲に出会っていませんが、いつの日か自分の好きな美味しい珈琲に出会い飲めるようになりたいものです。とはいっても気がつくと、いつもポッカのショート缶を探している自分がいたりします。

(鴨)

全国頸髄損傷者連絡会総会・岐阜大会 開催

2008年5月 於・岐阜県岐阜市

例年、各支部の特色を生かした全国総会を行なっています。近年参加者も多く、内容もより充実してきています。今度の岐阜では、どんな大会になるのか今からとても楽しみです。全国の会員の皆様もぜひご参加ください。次号ではもっと内容が明らかになります。

編集後記

全国各地で「前代未聞」の、漁師さん達の一斉休漁が行われました。原油高が津波のように漁業、農業、運輸業者などをはじめとして、産業界そして一般家庭をも飲み込んでしまいそうな勢いです。

先日行われた洞爺湖サミットでも、有効な方策を見出すことは出来なかったようです。

そしてこのようなことは結局、弱い立場のわれわれ障害者関係の施設・家庭の経済へと最も大きなのしかかってくるのです。これからも機会あるごとに、粘り強く声を上げ続けていくしかないのでしょうか。

T.K.

編集集部よりお知らせ

● 編集部員（協力者）募集

全国機関誌『頸損』編集部では、協力していただける方を随時募集しています。ぜひご連絡ください。

● 編集部連絡先

住所 〒189-0023 東京都東村山市美住町 1-4-15-1-105

TEL : 042-396-7816 E-MAIL : tosiaki@tokyo.email.ne.jp

● 郵便振替（振込） 00110-0-62671 頸損連絡会

拡大版「駐車禁止除外車両指定車」利用できます

編集部

既に大阪（兵庫）岐阜の機関誌で報告されたものをもとに、当編集部員が実際に取得してみました。とても役に立つもので、皆さまも利用してみたいかでしょうか。

● 対象者

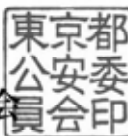
除外する車両を特定せず、当該ステッカーの交付を受けた身体障害者本人が、現に使用中の車両が対象となる。（免許・車を持っていない身体障害者も交付を受けることができ、移送サービス車、タクシーなどを利用するときも使えるということです）

● 有効となる条件

「駐車禁止」場所でのみ有効
「駐停車禁止」場所では無効。「危険」「交通渋滞を引き起こす」などの場合は対象外及び警察官の指導に従う。
時間制限駐車区間（道路に設置してあるパーキングメーター及びパーキングチケット設置場所）は無料となる。（指定の駐車枠内に駐車する）

その他の無効使用

- ・当然本人以外の使用は厳禁。
- ・一時的に使用目的に該当しない場合（自宅・勤務先付近、宿泊先などへの長時間または連日駐車）
- ステッカー - 提示の仕方
 - ・ 前面ガラスの警察官などが見やすい場所にステッカーを提示しておく。
運転者が車両を離れるときには、ステッカーと共に「運転者の連絡先又は用務先」を提示しておく。
- 交付申請の仕方
 - 申請時必要なもの
身体障害者手帳のコピー1枚（念のために手帳本体も持っていったほうがよい。）
住民票1枚、印鑑（シャチハタの類でないほうがよい）
申請場所
最寄りの警察署
申請後、何日かの審査期間の後交付されます。

駐車禁止除外指定車	発行番号 第	号
	発行日 平成 20 年 5 月 30 日	
歩行困難者 使用中		
この標章の交付を受けた本人が現に使用中の車両		
運転者の連絡先／用務先 別紙のとおり		
	有効期限	
	平成 22 年 11 月 28 日まで	
東京都公安委員会		

【詳しくは最寄りの警察署にお問い合わせください】

二〇〇八年八月十四日発行
SSKA 頸損増刊通巻第六三二五号(毎月六回一・六の日発行)
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

発行人
編集人

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧六―二六―二二
全国頸髄損傷者連絡会
東京都新宿区西早稲田二―一八―五F

SSKA 頸損 No.95

2008年8月14日発行

SSKA 頸 損

編 集 全国頸髄損傷者連絡会

編 集 責 任 者 三 戸 呂 克 美

全国頸髄損傷者 東京都新宿区西早稲田2-2-8

連 絡 会 本 部 全国心身障害児福祉財団ビル5階

TEL/FAX (03) 3208-1655

頒価二五〇円